

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171700271		
法人名	有限会社 ケアステーションせたな		
事業所名	瀬棚高齢者グループホームあさなぎ		
所在地	久遠郡せたな町瀬棚区本町792-2		
自己評価作成日	平成26年9月18日	評価結果市町村受理日	平成26年10月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171700271-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171700271-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年10月11日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域住民やボランティアの方との交流を大切なものと考え、地域の行事には積極的に参加しており、ボランティアの方には見守りや付添いで一緒に参加していただいております。ホームの行事にはボランティアの方や運営推進会議の委員さんにも参加していただき、お手伝いや貴重なご意見をいただいております。近隣の方がホーム周りの草取りやホームで使えるような食器類を譲ってくれるなどいろいろな面で支えていただいております。入居者の皆さんが四季を肌で感じていただくため、季節ごとの行事で外出の機会を創り、楽しんでいただいております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**<日々のその人らしい暮らしへの支援>**  
毎月のミーティングや日々の業務を通じて、職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その人らしいケアサービスの提供をいかに成し得るかを職員間で話し合い、本人・家族の希望にそって支援していくよう努めている。また、利用者・家族アンケートの結果からも家族の信頼が厚いことが伺える。

**<地域との交流及び連携>**  
町の広報誌に介護や困りごとのへの相談受け付けを掲載して周知を図ったり、認知症サポーター養成講座の出前講座の受け入れ等を行政にも周知し、事業所の持つ機能の地域への還元への取り組みが実践されている。また、ヘルパー実習生や地域のボランティアの受け入れ、町内会の行事参加や火災避難訓練への参加を地域の人々に呼びかける等で地域との交流・連携に努めている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作り上げた理念であり、重視していくこととして年度目標も話し合っで決め、共有して日々のケアにつなげております。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を職員全員で作り上げ、その実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会行事に積極的に参加しております。買い物や散歩でも声をかけあうなど交流を持っております。	町の広報誌に介護や困りごとのへの相談受け付けを掲載して周知を図ったり、認知症サポーター養成講座の出前講座の受け入れ等を行政にも周知し、事業所の持つ機能の地域への還元が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あさなぎの紹介や認知症の相談を受けていることを町の広報誌で周知している。また、認知症サポーター養成講座の出前講座の受け入れなどを行政にも周知しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や活動状況などを報告しております。避難訓練に参加した委員より今後も近隣住民の協力が大切であること、重度化した利用者の避難方法について意見が出されております。	年6回を目安に運営推進会議を開催し、利用状況や地域との連携など具体的内容について話し合い、そこでの意見を運営に反映できるように努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やホームの行事に参加、協力していただき、事業所の状況などを伝え、ご意見をいただいております。	町担当者とは、日常業務を通じて相談、助言を得ながら情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修会参加を計画しています。身体拘束、虐待予防・防止の自己評価を年2回行っています。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を身体拘束廃止や高齢者虐待防止の内部研修、自己評価を通じて正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修会参加を計画しています。身体拘束、虐待予防・防止の自己評価を年2回行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し、報告書で内容を職員全員が確認しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安のないように十分な説明を行い、理解が得られるように努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族交流会で意見を伺う機会を設けております。ご意見箱も設置している他、ご家族が来所された際にできるだけお話しするようにしております。	年2回家族交流会を開催し、家族等が意見、要望を言い表せるように、コミュニケーションをとる機会を設け、日常生活の様子や健康状態等情報交換している。また、利用者・家族アンケートの結果からも家族の信頼が厚いことが伺える。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見や提案を聴く機会を設けております。また、何かあればその都度話を聞いて取り入れております。年1回代表者と職員との個別面談があり、意見や提案を聴く機会を設けております。	毎月のミーティングや個人面談を通じて、職員の意見や要望、提案を聞く機会を設けている。また、就労環境の整備に今後さらに努めている計画がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や各職員の努力や、資格習得の把握や評価をし、向上心を持って働けるように努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにし、個々に合わせた研修に参加できるようにしております。外部研修を受講した職員が講師となり内部研修を実施しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域医療と介護の連携推進のための懇談会に参加しており、同業者や医療関係者と交流する機会ができております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・計画作成担当者が訪問し、本人から話を良く聴いて、不安や困っていることなどを受け止め、生活していきやすいように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安を受け止め、事業所としての対応を事前に話し合うように努めております。必要時は家庭訪問をして話し合いをしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況を確認し、必要な支援を見極めるように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であるという考えを職員で共有し、普段から調理や畑仕事で職員に教える場面を多く持てるようにセッティングや声かけに配慮しております。常に感謝の気持ちを伝えるよう心掛けております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況の変化などがあれば随時ご家族に相談して対応しております。できるだけ訪問してもらったり、行事に参加してもらい、家族の思いを受け止め、共に支えあう関係を築けるように努めております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町の行事や散歩、買い物などの外出を通して、知人や友人に会う機会を作り、関係が途切れないよう努めております。	一人ひとりの生活歴や趣味嗜好等を把握し、散歩や買い物、町内行事や小学校の運動会等の参加等で馴染みの人や場所の関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の言動から関係性や相性、その時々々の状況を把握し、申し送り等で職員が共通理解し、対立や孤立がないように介入しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会にて本人の状況を確認したり、町内でご家族に会ったときは状況確認しております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な場合が多いが、言葉だけでなく表情や行動から思いの把握に努め、家族からも情報を得ながら意向の把握に努めております。	毎月のミーティングや日々の業務を通じて、一人ひとりのペースを大切に、その人らしいケアサービスの提供をいかに成し得るかを職員間で話し合い、本人・家族の希望にそって支援していくよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話やご家族からの情報で把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、個人記録に記すことで現状の把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の意向を確認しながら、日々の観察をもとにミーティングで意見交換しながら作成しております。	本人、家族の意見や要望、医師や看護師からの指導や助言、カンファレンス・モニタリングを通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子やご本人が話されたこと、心身の変化の気づきを個人記録に記し、申し送りノートでも情報共有するとともに、介護計画の見直し時の評価や新たな課題にも活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の希望に応じて通院や送迎、食事内容など必要な支援は柔軟に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアセンターや警察、消防など地域資源を把握し、日頃から連携をとっております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医としており、外科や専門医などの受診もかかりつけ医の紹介を得ながら対応しております。	日常の健康管理や通院等への支援などで適切な医療を受けられるように支援している。また、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調不良などの気づきや情報を報告、相談できており、必要時、受診や看護を受けております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の説明時は同席させていただき、本人や家族、相談員と相談し、早期に退院ができるよう努めております。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について本人や家族の意向に沿えるよう話し合いをし、ホームの対応の限界を理解いただき同意をいただいております。また、関係機関との連携にも努めております。	早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ができることを十分に説明しながら方針を職員間で共有している。また、関係機関との連携に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、緊急時の対応マニュアルを作成し、職員間で共有しております。消防署にお願いし、普通救命講習を全員受講するようしており、3年毎に再講習も受講できるようにしております。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、近隣住民や警察署にも参加していただき、避難訓練を定期的を実施しております。ほかに月に1回職員間でも避難訓練を行っております。また、町が実施した自然災害訓練にも参加しております。	地域住民に参加を呼びかけて、年2回火災避難訓練を実施し、毎月自主避難訓練も行っている。また、平屋建て造りのオール電化で直火の使用は無く、安全に配慮していると共に火災報知器、通報装置、スプリンクラー等の設備も完備し、定期点検も実施している。		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、本人にわかりやすく、通じる言葉かけをし、不快な思いをしないような対応を心がけております。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないように職員間で周知に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんに合わせた説明や決定しやすいような問いかけの工夫をしております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事にしながらも散歩や買い物などの外出の提案をしたり、手工芸を楽しむ時間を持ったり、希望に沿うよう努めております。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室に行けるよう支援しております。ホーム内でも希望により髪染めをしたり、外出時にはおしゃれ着に着替えたり、化粧をするなどお手伝いをしております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの他、食事の動作や時間、量を把握して献立に取り入れております。その人のできることを見極めて食事作りや片付けに参加していただいております。また、月に1回出前の日を設け、本人が好きなものを食べてもらっております。	一人ひとりの好みや力を活かしながら職員と一緒に調理や食事の準備、後片付け等行えるよう工夫している。食材は、地元商店を利用し、地産地消に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は個人記録に記し、病気や体調、習慣に応じた支援をしております。水分摂取が消極的な入居者さんにはゼリーやトマトなどで水分補給してもらうよう工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や就寝時は口腔ケアを行っているが昼食後は全員には行っておりません。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間帯や習慣を把握し、排泄パターンに合わせたトイレ誘導をし、トイレでの排泄を促しております。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握し、トイレで排泄できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や食物繊維の多い食事にし、腹部マッサージなどもしながら自然排便を促すよう取り組んでおります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者さんのその日の希望を確認したり、体調や気分の良い時にあわせて声かけて、入浴していただいております。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて入浴を楽しめるように支援している。また、拒否の強い本人には柔軟に対応支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときには無理に眠りを強要せず、職員が話し相手になったり、温かい飲み物を飲んでいただく、居室の温度や湿度にも注意するなどの支援をしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方箋を綴り、副作用などを把握できるようにしております。薬の手渡しや飲み込み確認などの支援をして、症状の変化の確認に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑仕事、買い物やドライブ、散歩、読書、編み物、手工芸など得意なことをやっていたり、役割や楽しみにつなげたり、気分転換をしていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の気分や希望に合わせて買い物やドライブ、散歩、外気浴を楽しんでいただいております。花見や紅葉狩り、レストランでの外食、温泉入浴などに掛ける機会を持っております。	一人ひとりのその日の希望にそって、散歩や外気浴、紅葉狩りやレストランでの外食、温泉入浴や小学校の運動会参加等普段では行けないような場所へも出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり、事業所が管理している。希望に応じて週刊誌やおやつなどの買い物で使えるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも家族などに電話ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのソファの配置を工夫し、一人一人が居心地の良いスペースを確保できるように支援しております。蔦玉やクリスマスツリー七夕飾りなどで季節を感じて頂いたり、月毎に季節が感じられるタペストリーもホールに飾ったり、季節感のある花を飾っております。ご飯の炊ける匂いや茶碗を洗う音など生活感を取り入れる工夫をしております。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。また、リビングや共用空間には、行事参加の写真の掲示や季節毎の飾りつけなど生活感や季節感を採り入れて、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファやテーブルなどを配置し、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でくつろげるスペースを作っております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前から使っているものを持ち込んだり、家族の写真や人形などを飾ったりして本人の意向や家族の思いも聞きながら居心地良く過ごせる部屋になるよう配慮しております。	居室には、使い慣れた家具や寝具が持ち込まれたり、家族の写真や趣味で作った作品などが飾られ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、廊下などには手すり、玄関には座って靴が履けるようにベンチを置いております。必要に応じて部屋やトイレに張り紙をしております。		



### 目標達成計画

#### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	就業する職員の働きやすい環境づくりの再検討が必要である。	就業環境の整備。	・就業時間帯の考慮。 ・職場環境及び就労条件の整備。	12ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。